

議 事 概 要

分科会名称	伊勢市地域包括ケア推進協議会 第4回 認知症にやさしいまちづくり分科会
開催日時	令和5年9月28日(木) 16:00~17:15
開催場所	伊勢市福祉総合支援センターよりそい 会議室1
出席委員	6名(欠席1名) 村瀬分科会長、森川委員、牛谷委員 〔臨時委員〕 山川委員(職務代理者)、田中委員、前田委員
事務局 職員員	11名 市福祉総合支援センター長・包括支援係職員 5名 地域包括支援センターの認知症地域支援推進員 5名 第1層生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員) 1名
傍聴者	0名
議題及び 協議概要	<p>事務局から配布資料に基づいて説明したことに対し出された意見等は以下のとおりであった。</p> <p>1. 令和5年度「伊勢市の認知症施策の取組み状況」について (資料1) 資料に沿って説明。</p> <p>(1) 認知症施策の取組みに関する意見 (委員)</p> <p>各認知症地域支援推進員による、圏域での活動内容について、また、スローショッピング事業の実施状況及び啓発について聞きたい。 (認知症地域支援推進員1)</p> <p>カフェを手探り状態で開催。サポーター養成講座など地域での普及啓発に取り組んでいる。 (認知症地域支援推進員2)</p> <p>認知症に関する相談を受けた地域をターゲットに、認知症に関する講座を実施し、地域に見守ってもらえるような輪を広げるよう取り組んだ。 (認知症地域支援推進員3)</p> <p>チームオレンジを1か所結成。サロン運営者も高齢になり今後の運営について課題である。 (認知症地域支援推進員4)</p> <p>チームオレンジ2か所立ち上がっている。第2層生活支援コーディネーターと活動している。認知症カフェを9開催しもう1回年度内に開催予定。土地的に参加するには交通手段がないことが課題であり、解決策を考えていく。</p>

(事務局)

2つの地域包括支援センターで合同カフェを開催し、その後包括全体で行ってという推進員同士の連携も行われている。

(委員)

スローショッピングについて紹介。認知症の人が自分のペースで自分で好きなものを選んで買って、元気になっていく、がんばりがいがあるのではというのが始まり。店側の理解、協力も大切であり、認知度を上げていきながらスーパー等へ広めていく。周知についてはさらに工夫していきたい。

(委員) 広報だけではなくて市の公式ラインもいいのではないか。

(委員) ボランティアとして本日のスローショッピングに参加した。

家族の方の話を聞く担当と、一緒に買い物に行く担当とわかれている。家族は思いを話されすっきりした顔で帰れる。買い物に行く人は、最初は不安そうなお顔でいくが、帰ってきた後の顔が明るい。お金を支払って、家族へのお土産も買うという方もあった。このお店は閉まったなと話したり、新しいお店を見たり、一緒に喜んで自信を取り戻してもらえたらいいと感じている。

(委員) どれくらいの数に対応できるのか。

(事務局) 8組くらい。

(委員) チラシをメールで送ってもらったら、関係部署に広く周知できる。

(事務局) お願いしたい。さらに周知の方法を考えていきます。

(委員) 認知症ケアパスの配布はどのようにしているのか。もっと配布してはどうか。

(事務局) 配布を進めていきます。

(委員)

認知症高齢者等 SOS 家族支援サービスの GPS 携帯についての市の補助はどのようになっているのか。

(事務局)

初期費用(約1万円)を市が補助し、月々の基本料金は自己負担である。

(委員)

認知症個人賠償責任保険事業も見守りてらす登録の時に入れるのか？

(事務局)

GPS も賠償保険も見守りてらすに登録が基本。見守りテラス登録時に紹介し、希望を聞き登録可能である。後から申請でもよい。今回見守りテラス登録者の対象となる方にはすべて案内し希望を聞いた。

費用は、保険料の自己負担はない。令和5年9月1日からの保険適用7か月間で1人1060円を市が負担。翌年も希望を聞き継続していく。

2. 伊勢市第10次老人福祉計画・第9期介護保険事業計画（素案）について（資料2）

（事務局）

- ・「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が交付され、市町村は「市町村認知症施策推進計画の策定が努力義務化された。このことを受け市では、介護保険事業計画に市町村計画を盛り込むか考えであることを説明。
- ・資料2に沿って認知症施策素案を説明。

（補足説明）

P75②と③は、市として身近な場所で早く相談を受け、支援困難や複雑化しているケースについては認知症初期集中支援チームや認知症疾患医療センター等の専門の場へつなぐという体制を構築していく方向であることを説明。

（委員）

地域包括支援センターで認知症地域支援推進員が設置され、職員も相談のスキルが上がっている。認知症初期集中支援チームは、緊急対応やレスパイトケアが必要なケースなどの相談体制である。問題を解消するための体制として必要かと思う。

（事務局）

相談者が困ったときに、認知症初期集中支援チームや認知症疾患医療センター等でのスーパーバイズの間があると安心して取り組むことができる。

（委員）

計画素案資料P73の「市では認知症の人の尊厳を保持し、「希望」をもって暮らすことができ、」というところで「希望」という表現が気になった。「生きがいをもって」「安心して」「やりがいをもって」等ポジティブな言葉に言い換えができないか。

若年性認知症の方の相談について、どう考えるか。就労継続支援の観点も大切ではないか。

（事務局）

- ・計画中の表現については、前向きな言葉に変更します。
- ・若年性認知症の方への取り組みについては、課題と考えている。相談窓口を示すところから考えていきたい。当センターでは、世代も分野も問わない福祉の相談体制をとっている。

就労支援については、働きづらさを抱えた人への施策に取り組んでいるので、若年性認知症の方を含め考えていきたい。

（委員）

定年年齢も伸びている。認知症対策の中では就労の視点も必要であり、検討を。

（委員）

雇用について、いせ見守りてらす協力機関に登録している企業に雇用の話を持っていくのも方法かと思う。洗車や車の掃除等できることがあれば雇用も可能では。そういった働きかけはどうか。

伊勢市で若年性認知症の方は何人か。

(事務局)

介護認定を受けている初老期の認知症は14人。

企業には雇用という視点でも関わっていきたい。

(委員)

スローショッピングに参加しているが、スローショッピングの話をして、知らない人がほとんどである。広報など写真を使って工夫をしてはどうか。

(委員) 動画や写真があるとよい。文字だけだと見過ごすこともある。

(事務局) 工夫をしていきたい。

(委員) もっといろんな方に参加してほしい。認知症安心ガイドブックは紹介している。

(事務局) さらに様々な機会や場所で配布していく。

(委員)

後期高齢者の方、特に女性の方は買い物されるといきいきしている。

地域に移動スーパーが来ると、買い物前に30分くらい話をしており、買い物は認知症防止になるのではないかと思う。

(第1層生活支援コーディネーター)

移動販売や、買い物支援について紹介

(分科会長)

出た意見を元に、文言を含めて介護保険事業計画に反映をしてください。

4. その他

(事務局)

・本分科会の結果については、10月2日開催の伊勢市地域包括ケア推進協議会で報告予定。伊勢市ホームページでも公開する。

・今年度内に1回開催予定

・福祉総合支援センター内で認知症カフェを開始予定。

(以上)